

令和7年度仙台市戦没者戦災死者合同慰靈祭市長追悼の辞

本日ここに、戦没者並びに戦災死者の御霊(みたま)に、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

先の大戦では、戦場や遠く離れた異国の地において命を落とされた方々、また、戦地に赴いた身内やご友人を案じつつ、戦災により亡くなられた方々など、かけがえのない多くの人命が失われました。

また、市中心街にあまたの焼夷弾(しょういだん)が投下された、昭和20年7月9日から10日未明にかけての仙台空襲では、千数百人の命が失われるとともに、仙台の街が一夜にして焦土と化しました。

本日開催している「次世代への戦争の記憶継承展」では、仙台空襲からの復興、そして現代のまちの姿となるまでの変遷に関するパネルを中心とした展示を行っておりますが、改めて、空襲のすさまじさとともに、平和な日々の大切さを噛み締めたところでございます。

決して癒されることのない思いを胸に抱きながら、幾多の苦難を乗り越え、歩んでこられた方々に、衷心(ちゅうしん)より敬意を表する次第です。

今年は終戦から80年にあたります。世界では、いまなお、悲惨な侵略行為や戦争によって多くの尊い命が失われており、当たり前のように平和を享受できている私たちが、いかに恵まれているのかを考えさせられます。

しかし、今日の私たちの平穏な暮らしにいたる過程には、多くの犠牲がありました。そのことを胸に刻み直すとともに、戦争の悲惨さと愚かさを、そして平和の尊さを訴えていくことが、私たちの責務であるということに思いを強くいたします。

結びに、戦没者並びに戦災死者の方々の御霊(みたま)の安らかならんことを、謹んでお祈りいたしますとともに、御遺族の皆様方のご健勝を心から御祈念申し上げ、追悼の言葉とさせていただきます。

令和7年7月10日

仙台市長 郡 和 子